

モンゴル訪問記

太陽が昇ると大草原は見渡す限り黄金色に輝く、遠くに見える二つのゲル以外人工のものは何一つ見えない、ここウランバートルから西 80 km アルガラント村とウランバートル市内で短いホームステイをしてきた。

大阪国際交流センター主催のフィールドスタディツアーに参加したのは昨年 8 月、目的はモンゴルを肌で感じ異文化体験を通じて市民レベルでの友好交流と身近なボランティアを通じて国際協力、国際貢献を図ること。遊牧民の食生活調査や同行した日本人医師、看護師各 2 名、NPO 1 名が行う健康診断の際の補助をするのが役目。



ゲルとホームステイ先では言葉が通じないから会話のため持参した「モンゴル語の指さし会話帖」のページめくって絵文字に互いに指さして応答、もどかしいが意志は通ずる。遊牧民は羊、牛、馬、山羊を飼育していたが彼らの羊を追う姿は一幅の絵を見ているよう、作業一つ終わってゲルへ戻ると馬乳酒をどんぶりだがぶがぶ、水を飲む代わりに水分補給に欠かせないのが馬や牛の乳なわけである。

二軒目ゲル滞在先には 5 歳のハンガイという子供がいたがこの子の目は輝いている、驚いた事にハンガイ一人で馬群を追う、山から枯れ枝の束を馬に引かせて帰ってくる、鉄砲持った祖父と狩りに出る、薪割りにはパワフル我々にこうやって割るんだと模範を示すとてもしっかり者であった。ゲルにトイレは無く広い草原がその場所、電気、水道に無縁、牛糞を燃料にリサイクル、遊牧民生活は実に地球に優しい。

日本から持参した伝承玩具の材料、紙とんぼ、ぶんぶんごまとガリガリとんぼをゲルの大人たちや市内ホームステイ先の子供達に作り方を伝授全員喜んで取り組んだ。

僅かな期間ではあったが遊牧民と生活を共にして思ったことはすごく懐かしいものに触れ元気を授かったような気がしたこと。特に若い人に「自分さがし」に行ってもらいたい国の一つであると思っている。

S A 寝屋川 戸川義隆

Email : togawa@gold.ocn.ne.jp

